

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2423号 2018年09月10日（月曜日）

《 Japan on target 》

貿易に関して「二国間均衡」というやや古色蒼然たる考え方をもち、選挙戦の最中からしばしば日本の対米貿易黒字をやり玉に挙げてきたトランプ大統領が、いつかは対日貿易問題を取り上げるだろうという事は十分に予想できた。その意味では先週のトランプ大統領の一連の「対日強硬・取り組み開始発言」は「やはり来たか」という印象以上のものではない。

安倍首相とトランプ大統領との蜜月関係故に、トランプ大統領が対日貿易問題を最後まで取り上げないと考えるのは最初から無理があった。同大統領は中国の習近平主席に対しても、「ウマが合う。尊敬もしている」と言いながら、今の厳しい、そして対決的な対中国姿勢だ。そこには貿易問題を越えて「覇権争い」の印象も強くする。

ただし当面は対中国、対EUやメキシコとカナダが絡むNAFTA関連の一連の貿易問題・交渉に取り組んでいて忙しく、対日問題への取り組みはやや先かなというイメージがあった。しかしメキシコとの新たな貿易関係樹立に決着を付けることに成功し、対EUでも少し余裕が出てきたところで、すかさず「対日」を持ち出してきた。対中国が今最ももめているにも関わらず。

しかし多分、これは彼に特有の「思い付き」ではない。米有力紙の幹部との電話インタビューの中と、地方遊説に向かう機内での記者団とのやり取りで二回「対日貿易問題」をわざわざ取り上げている。「対日」問題が大統領の心象風景の中で大きくなっていることは確実だ。

注目されるのは、「この問題で進展がなければ、日本との、そして安倍首相との良好な関係も直ぐに終わる」と言う主旨の事を言っている点だ。トランプ大統領が一時中断となっているライトハイザー米通商代表と世耕経済産業相の日米貿易協議があまり進展していないことを念頭に喋っていることは間違いない。つまり同大統領は「この交渉で日本は譲歩すべきだ。そうでないと対中国のように日本はアメリカとの通商戦争に直面することになる」と脅しているのだ。

2421号 (<http://arfaetha.jp/ycaster/news/pdf/20180820.pdf>) で取り上げたような具体的な対中要求を、アメリカが日本にぶつけてくるか不明だ。米ウォール・ストリート・ジャーナルによればアメリカは中国に対して

1. 中国が対米貿易黒字を 2020 年までに年間 2000 億ドル減らす。つまりアメリカの対中赤字を半分以下にする
2. 「中国製造 2025」とも呼ばれる産業政策を中国が放棄する
3. 世界貿易機関 (WTO) でアメリカが対中国で起こしている訴訟に反対しない
4. 鉄鋼、アルミ、その他産業での中国による補助金の削減や過剰設備の解消
5. 中国は、アメリカ企業に対する技術移転圧力をやめる
6. 米国の商品・サービスの一層の購入を行う
7. 人民元の切り上げ

などの要求を突き付けてきている。その時書いたが、その大部分はとても中国が飲めない条件であって、そうした中でもトランプ大統領は従来二回、合計 500 億ドル分の中国からの輸入に課した高率関税に加えて、2000 億ドル分の中国の対米輸出に高率関税を課そうとしている。その決定は今週中の確率が高い。

《 cut by more than half 》

仮にこれを先例と考えると、彼の頭の中には

「アメリカの対日貿易赤字（年間 700 億ドル程度）を半分以下にしたい」

「その為には日本の対米黒字の大半を占める自動車を何とかしたい」

「加えて日本が一番嫌がる農産物輸出を増やしたい」

というアイデアがあると思われる。それは今後の日米貿易交渉の過程で前面に出てくるはずだ。そのプロセスの中で、日本のマーケットにインパクトとして出てきそうなのは「株安・円高」だ。

この二つがやや緩和される要因はある。株については既に日本の株は先週を見ても「対米摩擦の実現化」を予測して水準訂正している。つまりかなり織り込みつつある。また円高に関しては、アメリカの金利は今後も上がりそうで、それがアメリカの通貨であるドルを下支えしそうだという考え方が出来る。

しかしトランプ大統領がツイッターにいつ「円は安すぎる」と書き込むかは誰も分からない。対中国と同様にトランプ政権が「通貨で日本を攻める」方針を決めたときの為替市場に対するインパクトは相当大きいだろう。

今トランプ大統領が国内で置かれている状況は、マスコミ的、世論的には極めて厳しい。票を投じる実際の選挙民がどう思っているかは不明なところがあるが、大統領の資質を巡る問題は現職政府高官のニューヨーク・タイムズへの寄稿で改めて注目されたし、難病の末に亡くなった共和党の重鎮マケイン上院議員の葬式にも参列しなかった（多分呼ばれていなかったと思う）ことで、その“孤立”は鮮明になっている。

トランプ陣営で大統領選挙に関わった人物の有罪判決も出ている。「何が票になるか」を直ぐに考える人だから、選挙戦の最中に取り上げたものの大統領になって取り組んでない問題として「対日貿易」が頭に浮かんだとして不思議ではない。結構真剣だろう。今週は、この問題が何かと頭をよぎる週になる。

対する日本政府の出方に関しては、日曜日の日経などに詳しく出ているが、彼の攻撃ポイントが「農業」であることは明確。今総裁選を戦っている安倍首相には安易に反応できない背景がある。しかし近く日米首脳会談の予定もあり、総裁選が終わる頃にはトランプ大統領の「対日攻勢」に対して日本としての対応策を決めなければならない。石破氏が自民党総裁に選ばれたら、彼の最初の仕事が対米関係の再構築になる。

- - - - -

トランプ大統領の貿易に関する考え方を知る上で、非常に参考になる例がこの週末にあった。それは米政府が最終検討している対中国制裁品目の中にアップルのウォッチ（デジタル端末）が入ったこと。言うまでもなく私も持っているアップルの最新製品であり、アップルの製品の中でも「成長商品」と見なされているものだ。

そのアップルのウォッチが制裁品目の中に入りそうな情勢だ。アップル・ウォッチは大部分が中国での組立で、統計上は中国の対米輸出項目。アップルがこの件に関して「アメリカの消費者にとって打撃になる」と除外を求めたら、この週末に大統領はツイッターに「関税を逃れる簡単な方法がある。今すぐにアメリカでの生産に切り替えろ」と書いた。

このことは二つの事を意味している。それは「彼の考え方の中に企業人的な部分はあまり存在しない」ということと、「要するに彼にとってアメリカの消費者も念頭にはなく、“選挙”しか考えていない」ということだ。多分彼に投票した大部分のアメリカの有権者は「アップル・ウォッチ」には縁遠い人達だ。

もっとも筆者はトランプ大統領を「経済が分かっている大統領」だとは最初から思っていない。世界で一番不動産価格が上がりやすく、そして下がりにくいマンハッタン（不動産の世界的ブランドの地）を舞台にしたからこそ成功できた「特殊不動産分野の人」という認識だ。

今回のアップル・ウォッチを巡る一連の彼の書き込みで、それが明らかになった。アップルが、失業率が4%を割る今のアメリカで、しかも手先の器用な、中国並みに労働賃金が安い労働者をどうやって必要人数探せるというのか。現実離れしている。限りなく無理筋の話だ。もしかしたらトランプ政権はiPhoneに比べればウォッチはマイナーな製品と考えているのかも知れない。しかし筆者の認識によればウォッチの方がテクノロジー的にも使用者の利便性にとってもiPhoneよりはるかに成長商品だ。

対日措置は少し先になるかもしれない。今週限定で見ると、「トランプ政権が対中国でどのような結論に達するのか。それがどういう形で発表になるか」「それに対して中国がどう反応するか」が一番大きなポイントだ。

《 high prices in US 》

先週のアメリカ話の続きを一つだけしておきたい。それは物価の話だ。アマゾン・エフェクトもあるしどうかと思っただけだったが、何をするにも、何を食べるにも、何を買うにも日本人である私には「高い」と感じた。

スタバなどの珈琲ショップなどでちょっとしたサンドイッチ系の食べ物を買おうと直ぐに10ドル札が二枚消える。お釣りは来るが少ない。エンジェルス・スタジアムの売店で売っている大谷グッズも「記念だからしょうがないか」と覚悟して買わねばならない。アメリカでは「絶対的に安い」と思っていたガソリンも高かったし、レンタカーも何だかんだ言われて予約した車よりグレードを上げさせられ、日本の感覚からは「高い」という部類の支払いを余儀なくされた。

それは筆者が回ったのが主に都市部だったからかも知れないが、アマゾン・エフェクトの考え方からすれば物価には均一圧力が働くと思われるので、やはりアメリカでは物価上昇圧力が強いのだろうと考えた。それは日本ではほとんど感じたことがない圧力だった。その体感的感覚からすれば、アメリカの政策金利が片足2%に着いたのは至極当然のように思える。

そしてそうした中で思ったのは、「アメリカの一般の人が暮らすには、かなり状況は厳しくなりつつある」というものだ。日本では平気でワンコインで昼飯を食べられるが、アメリカではなかなか難しいと感じた。加えて住居費が都市部では高騰していた。郊外ではどうか知らないが、マンハッタンのような代表的市街地ではハーレムやイーストビレッジのような従来だったらとても「住宅地」とは呼べないような危ない地区が、安全・綺麗になっていた。その代わり住宅相場、賃料が大きく上昇していた。あれでは一般の人は住めない。

また日本でもよく報じられているが、これも従来は低質の、危険な住宅地だったブルックリンなどの郊外の一部もグリニッジ・ビレッジ的なレストランとショップが並ぶ洒落た街になっていて、不動産業者の店舗で一带の不動産価格をチェックしたら「これは高い」という印象だった。

郊外では空き家が増えて困っているのに、都市の中心やその郊外では不動産価格が上昇するという日本と同じ状況が生まれていた。これは「都市中心」の今の世界では世界共通の現象になっていると思われる。

そうした中で出たのが米8月の雇用統計だ。今回の統計の最も大きな特徴は、非農業部門の就業者数が予想以上に伸びて20万人の大台に久しぶりに乗ったとか、失業率が相変わらず4%を下回っていることではない。賃金の伸びが2009年のリセッション終了以降で最大となったことだ。米労働省の発表によると8月の平均時給は前年比で2.9%増。伸び率は前月(2.7%)から加速し、ブルームバーグが実施したエコノミスト調査での予想全てを上回った。市場予想の中央値は2.7%増だった。

当然「9月の利上げは確実に上がった」ということ以上に、「いよいよ賃金にも上昇圧力が

かかってきた」との見方が出来る。私の印象からすると、アメリカではそろそろ賃金が上がらないと一般庶民は暮らせなくなる。

なので長期金利にも上昇圧力がかかって米指標 10 年債の金曜日の引値は 2.941%となった。それは統計発表前の 2.8%台後半から見れば 0.1%ポイントの金利上昇を意味する。ただし 3%には乗らなかったことは敢えて書いておくべきだろう。今後の注目は、その「賃金上昇のペースの変化」と「賃上げの幅」だろう。

- - - - -

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|---|
| 09月10日(月曜日) | 4~6月期 GDP 改定値
7月国際収支
8月景気ウォッチャー調査
エルニーニョ監視速報
中国8月消費者物価
中国8月生産者物価
トルコ4~6月期 GDP
米7月消費者信用残高
国際捕鯨委(IWC)総会本会合(~14日)
マレーシア市場休場(~11日) |
| 09月11日(火曜日) | 8月マネーストック
7月第3次産業活動指数
30年国債入札
東方経済フォーラム(~13日、ウラジオストク)、安倍首相出席
独9月ZEW景況感指数
米3年国債入札
インドネシア市場休場 |
| 09月12日(水曜日) | 7~9月期法人企業景気予測調査
インド8月消費者物価指数
米8月生産者物価=21時30分
ベージュブック
米10年国債入札
米アップル、新製品発表会 |
| 09月13日(木曜日) | 8月国内企業物価指数
7月機械受注
8月都心オフィス空室率
8月首都圏新規マンション発売
5年国債入札 |

ECB 定例理事会(ドラギ総裁会見)
英国金融政策発表
米 8 月消費者物価
米 8 月財政収支
米 30 年国債入札
インド市場休場
0 9 月 1 4 日 (金曜日) メジャーSQ 算出日
中国 8 月鉱工業生産
中国 8 月小売売上高
中国 8 月都市部固定資産投資
米 8 月小売売上高
米 8 月輸出入物価
米 8 月鉱工業生産・設備稼働率
米 7 月企業在庫
米 9 月ミシガン大学消費者マインド指数

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。東京は残暑厳しき週末だったのですが、日本列島は東西南北に長い。各地で様々な天候があったと思います。最近、地方によって大きく天気が異なる。しかしこの 10 日間ほどの日本は、台風、地震と天災続き続きで心配な状況であり、少し落ち着いてくれることを祈りたい気持ちです。それにしても、一時は関空と新千歳という日本でも大きな空港が原因は別だとしても重なって使用不能になった。過去に例のないことだと思う。

もっとも「日本のインフラも脆弱」と思う一方で、そのマネジメントは徐々にうまくなってきた様子も窺える。台風 21 号の関連では、関西の鉄道は思い切りよく時間を区切って「運行停止」に踏み切ったところが多かった。中途半端に動かすより良かったと思う。私は火曜日の昼から関西に仕事があって同日の朝に新幹線で移動したのですが、多少の東京駅の出発遅れにも関わらず、到着は時間通りだった。日本の新幹線システム、そのマネジメント能力は素晴らしいと思いました。

- - - - -

日本にとってとっても多難な週末でしたが、スポーツの分野では嬉しいニュースが多かった。大坂なおみ選手のセリーナ・ウィリアムズをストレートで破っての全米オープンの制覇は、男子の錦織選手の復活（同大会で準決勝まで進んだ）もあって「テニスでも日本はいよいよ本物」との印象を与えた。セリーナがコーチングに関して主審と激烈な口論をし、ペナルティを科されるなどやや後味の悪さも残った決勝戦でしたが、その混乱に大坂選手が心を乱さなかったことが素晴らしい。

地上波、BS で放送していなかったのですがネットでずっと推移を見守りましたが、結構リアルタイムに更新されて、ブレイク、ブレイクバックなどが鮮明に分かって「こういうスポーツ観戦もあるな」と思いました。セレーナの主審との口論などは聴けなかったが、ゲームを想像するのが楽しかった。マー君も8回までマリナーズをゼロに抑えたり、大谷君もHRを19まで伸ばしてきた。今朝もホワイトソックス戦で4番DHで試合にフル出場して、3打数1安打。現時点での打率は0.291となった。3割復活が近い。チームも勝って、5割が見える。もし彼が打率3割、20数本のHR、そして投げて4勝なら、ほぼ確実に「新人王」でしょう。楽しみ。

彼を10月に見ることが出来ないのは残念ですが「11日に決定を下す」との腕の手術に関して敏速に決定を下し、来年もなるべく長い期間活躍して欲しいと思います。私は8月24、25、26日の三日間エンジェルス・スタジアムの対アストロズ戦で彼を見ましたが、とにかく凄まじい実力、そして人気です。また来年もまたあの球場に行きたい。晴れた夕暮れのエンジェルス・スタジアムの綺麗さは、今でも記憶に鮮明です。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》